

PilePaperFile

開発者:美崎薫

開発の背景、目的

情報があふれ出す時代がやって来ている。

従来のコンピュータは、「エクスプローラ」(探索/Windows)や「ファインダー」(探すもの/Macintosh)の用語が端的に示すように、必要に応じて必要なファイルを探しながら使うものであった。

コーヒーにするか紅茶にするか、という二者選択でさえめんどろであると感じる日常生活の場合、このようなめんどろなコンピュータの出番は少ない。ユーザーが求めているものは、もっと違うのではないか。

サーチエンジンのGoogleの「I'm Feeling Lucky」が示すように、たくさんの情報を背景にしながら決定的なひとつ(あるいは少数)を提案することは、これから増えていくと「受動的な用途」では、きわめて重要な要素である。

PilePaperFileの目的は、ユーザーに必要な範囲でコンピュータを直感的に操作可能にするため、紙らしいリッチな感覚を採り入れることにある。

従来、紙のメモ、紙の写真の時代には、コンピュータより直感的に複数のメモ/写真を比較し、並べ換え、分類し、一覧する作業が可能であった。コンピュータでは、紙に比較して大量の情報にアクセス可能だが、実際にはコンピュータのなかの情報は、ディレクトリ構造に支配されており、安易に死蔵しまいがちになる。とくに、ファイルを開く操作をしたり、メールをクリックしないと内容を読めないなどのように情報には能動的にアクセスする必要がある。

今後、ますますコンピュータ上の情報が増えていくと、それらの情報はまったく顧みられることなく打ち捨てられてしまう可能性がある。

PilePaperFileでは、貯めるだけでなく、活用できるようにコンピュータのファイルを扱えるように提示する。

「書く(撮る)」「見る」「よむ」をシームレスに

デジタルカメラで撮った写真にメール、Web、テキストなどの情報をPileDesktopでは一括管理。書いた文章や見せたい写真は、サブモジュールのPileMailやUploaderでblogやFlickrに自動的にアップロード。メールの返信もシームレス。紙のように手で並べて考えて書き表現する流れを、PilePaperFileで実現できる。



市場(ユーザー)にもたらす効果

携帯電話やデジタルカメラやメールのように機器ごとに分断されるのではなく、データを中心にして、選んだりコメントして楽しむ、新しい楽しみ方をPilePaperFileは提案する。コンピュータをもっと紙に近づけ、創造的な活用をする新しい文化が生まれてくる。

市場(ユーザー)に向けたメッセージ、セールストーク

大量のメモや写真やメールを死蔵することなく、うまく活用するために、見ながら積み重ねて、手で並べて選べるPilePaperFileが生まれました!